

大台ヶ原自然再生推進計画（第2期）における「新しい利用の在り方」の目標と平成21年度利用対策業務

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>長期目標 人と自然との新たな関係</p> | <p>中期目標：今後20年（平成40年度まで） 新しい利用の在り方</p> | <p>短期目標：今後5年（平成26年度まで） 新しい利用の在り方推進</p> | <p>平成21年度利用対策業務</p> |
| <p>利用者の自然再生に対する理解を深めるとともに、利用の「量」の適正化と「質」の向上を通じて、「ワイルドネス」の実現を目指す。</p> | <p>① 適正利用に係る交通量の調整～マイカー規制等の実施～ ピーク時における車両の入込み台数の調整と、利用の分散化を図るためパーク＆シャトルバスライド等の手法を検討、導入し、自然環境に対する一時的な過剰負荷を軽減する。 ② より良好な森林地域の保全と質の高い利用の提供～利用調整地区の運用～ 西大台ヶ原地区については、適正に利用調整地区を運用し、良好な森林地域の保全とより質の高い自然体験学習の場を提供することを目指す。</p> | <p>○ 社会実験の実施によるマイカー規制の検討 自然環境や地域経済等に配慮したマイカー規制（パーク＆シャトルバスライド等）を検討するために、各種条件整理や社会実験を実施する。 ○ 各種取組による一時的な過剰負荷の軽減 周辺地域の関係機関等と連携した公共交通利用促進の普及啓発や、山上駐車場の混雑情報の発信等、自然環境に対する一時的な過剰負荷の軽減を目指す。 ○ 利用調整地区の適正な運用等 モニタリングから得られる結果等を基に、周辺地域住民や関係機関等との協議・調整による利用調整地区の適正な運用を図る。また、来訪者が簡易に利用できるように、利用調整地区に係る制度又は運用方法を改善する。 ○ より質の高い自然体験学習の提供 西大台ヶ原地区におけるガイド制度に向けた検討や、エコツアーズの試行等による、より質の高い自然体験学習を提供するための検討を行うとともにガイドブックの充実等の利用者への情報提供の拡充を図る。 ○ 利用調整のモデル地区としての情報発信 西大台ヶ原の魅力や、利用調整の主旨を全国にアピールするための情報発信手法等の検討を行い、各種情報媒体等による情報発信を行う。</p> | <p>2. 「適正利用に係る交通量の調整」に係る取組 (1) 大台ヶ原における自動車利用適正化に係る調査 (2) 大台ヶ原山上駐車場の混雑情報発信 (3) 公共交通機関利用促進普及啓発キャンペーンの実施</p> <p>3. 「より良好な森林地域の保全と質の高い利用の提供」に係る取組 (1) 西大台ヶ原利用調整地区の普及啓発ポスター及びリーフレットの作成、配布 (2) 利用者による影響調査 (3) 利用の質に関する調査検討 (4) 西大台ヶ原利用調整地区におけるガイド制度検討に係る調査</p> |
| <p>利用者の自然再生に対する理解を深めるとともに、利用の「量」の適正化と「質」の向上を通じて、「ワイルドネス」の実現を目指す。</p> | <p>③ 総合的な利用メニューの充実～特に利用の質の改善のための条件整備～ 利用者等が自ら自然の大切さを学ぶことを促すため、施設の整備とふれあい啓発に関する取組の両面から、周辺資源の活用を図りながら、学校教育との連携等幅広い主体の参画と協働を得た形で一体的・総合的に取り組むことにより、利用の質の改善を図る。</p> | <p>1. 利用動向の把握に関する取組（利用者数の把握に係る調査分析・利用に係る課題整理）</p> <p>ii キャンプ指定地の設置 ○ キャンプ指定地の必要性の検討 ○ キャンプ指定地の必要性について、利用者の意向を把握する。 ○ 候補地の検討、選定キャンプ指定地として適切な候補地を検討し、選定する。 iii 登山道・自然観察路の充実 ○ モニタリングによる登山道・自然観察路の現状把握 ○ 周回幹線歩道等の歩道や自然解説識等のサインについて、継続的に利用状況等を把握する。 ○ 整備の実施 上記モニタリングにより、整備や補修等が必要と判断された場合は、適宜実施する。 iv 自然解説・自然体験学習プログラムの充実 ○ 環境省主催による自然体験学習プログラムの実施 ○ 現行のアウトドアアレンジャーやパークボランティアによる自然観察会等との役割分担を明確にした上で、新たな自然体験学習プログラムを検討・実施し、大台ヶ原自然再生事業により蓄積されたデータを活用を図る。 ○ 周辺地域の関係機関等と連携した自然体験学習プログラムの実施 エコツアーズ等の実施等、周辺地域の関係機関等と連携したプログラムを検討する。 v 情報提供・情報発信の充実 ○ 周辺地域の関係機関等と連携した情報発信の充実 大台ヶ原の魅力を発信等、周辺地域の関係機関等における情報発信と連携して、情報発信の充実を図る。 ○ 各種情報の活用 大台ヶ原自然再生事業における各種取組や、その成果等の情報の紹介と活用を図る。 vi ビジターセンター機能の充実 ○ 機能整理 ○ ビジターセンターの役割を整理し、その機能を充実を図る。 ○ データ・ノウハウの蓄積 外部との連携手段の改善について検討を行うとともに、大台ヶ原自然再生事業における各種取組の成果やノウハウを蓄積する。 ○ 周辺地域の関係機関等との連携 ○ ビジターセンターの機能を補完するため、周辺地域の関係機関等との連携を推進する。</p> | <p>4. 「総合的な利用メニューの充実」に係る取組 (1) 大台ヶ原自然資源調査 (2) 自然体験プログラムの実施 (3) 大台ヶ原に係る展示等の実施</p> |